



# 平成 28 年度 ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in ふくしま 実施報告書



日産労連  
NPO 法人 日産労連 NPO センター「ゆうらいふ 21」  
公益財団法人 国際障害者年記念ナイスハート基金



---

# 目 次

---

|                                                             |    |
|-------------------------------------------------------------|----|
| はじめに .....                                                  | 1  |
| 実施概要 .....                                                  | 2  |
| スケジュール .....                                                | 3  |
| ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い<br>庄崎 隆志 .....                 | 4  |
| ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い<br>メイミ .....                   | 9  |
| プログラム概要 福島市立福島養護学校（11月26日） .....                            | 14 |
| 参加者の感想 .....                                                | 15 |
| プログラム概要 （福）あぶくま福祉会だての郷（11月26日） .....                        | 16 |
| 参加者の感想 .....                                                | 17 |
| プログラム概要 白石陽光園（11月27日） .....                                 | 20 |
| 参加者の感想 .....                                                | 21 |
| プログラム概要 指導者向けワークショップ（11月27日） .....                          | 22 |
| 参加者の感想 .....                                                | 23 |
| プログラム概要 白石寿光園（11月27日） .....                                 | 24 |
| 参加者の感想 .....                                                | 25 |
| ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップに参加して<br>日産労連福島地方協議会 議長 木村 孝幸 ..... | 26 |
| 特定寄付金協力謝礼 .....                                             | 27 |
| 編集後記 .....                                                  | 28 |



## はじめに

日産労連は、結成当初から何か社会貢献ができないかと試行錯誤を重ね、1976年には組合費とは別に毎月100円を全組合員が拠出する「福祉基金」を設立、そして2004年には「NPO法人ゆうらいふ21」を設立しました。この間、「クリスマスチャリティー公演」を41年間、「チャリティーきゃらばん」を26年間、「発達障がい児と家族のためのウインターキャンプ」を6年間開催してきました。

そして東日本大震災、原発事故の被災地である福島県の子供たちに焦点をあてた「わくわくファミリーキャンプ」を2012年から3年間開催、昨年は「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in ふくしま」の取り組みに切り替えました。このように長年に亘って福祉活動に取り組みながらも、言葉を使わないコミュニケーションは、昨年初めての試みでした。

今回、この活動に参加するにあたって、昨年の実施報告書に目を通しましたが、言葉に頼っている日常生活からすると、相手の体の動き、表情などを汲み取ってコミュニケーションをとれることができるのか否か不安と期待を持ちながら当日を迎えました。

そんな戸惑いを持ったまま、最初の会場である福島市立養護学校にて、庄崎隆志さんとメイミさん、二人のファシリテーターの様子をうかがっていると、施設の子供達が入場してきたときから、二人の真剣勝負が始まっていると察しました。大勢いる子供たちの表情や動きを見て、どのようにコミュニケーションを仕掛けていくのか、どの子がスムーズに私たちを受け入れてくれそうかなどをイメージしていると感じました。手拍子やハイタッチを通じて、子供たちの表情がゆるんだり、恥ずかしそうにしたり、無反応な子供もいましたが、瞬く間に、はにかんでいた子供たちまでもが喜びを全身で表し、積極的な動きに変わっていく様子を見て、心も体も暖かさに包まれるような変化を感じました。

午後にもう一施設を回って、心地よい充実感と疲労感に満たされ、初日が終了しました。

そして2日目の3会場目にあたる白石陽光園で、初日の経験を試す機会があとずれました。施設の仲間の輪には入らない一人の男の子が、私に近づいてきました。手拍子やハイタッチ、肩へのスキンシップなどを繰り返しましたが、施設の子は、無反応のまま私から遠ざかり、数分後また近づいてくる。何度か繰り返しているうちに、私に手拍子を求め、その手拍子に合わせてのジャンプをして楽しんでいるようにも見えました。さらに繰り返していると今度はハグを求められ、さらに何度か繰り返すと、ハグをした際に彼が私の耳元で言葉ではない声を発していました。彼とのノンバーバルに対して「困ったぞ・どうしよう」の戸惑いから真剣に対応しているうちに、家族に接するような気持ちへと変化していると感じました。お伝えしていくことは、まだまだたくさんありますので、今回の経験を通じて得たものを関係者にきちんと伝えながら今後の取り組みにつなげていきたいと考えております。

今回、貴重な経験をさせていただきました。ワークショップに携わってくださった全ての方々に感謝を申し上げます。

平成28年12月

高木 章

日産労連  
副会長



---

# 実 施 概 要

---

## ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in ふくしま

1. 目 的      東日本大震災後の福島の子どものための取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を平成24年度から続けてまいりました。今年は、福島県内の各養護学校中心に、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について、ノンバーバル（非言語）という手法を用い、楽しみながら体験していただくために開催致します。
2. 日 時      平成28年11月26日（土）～27日（日）
3. 場 所      福島市立福島養護学校  
                 （ 福 ）あぶくま福祉会だての郷  
                 白石陽光園  
                 白石寿光園
4. 主 催      日産労連  
                 日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」  
                 公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
5. 後 援      福島県教育委員会

## ～スケジュール～

### 11月26日

#### 1日目

9:15 福島市立福島養護学校到着

9:45 挨拶

福島市立福島養護学校 塚野校長

日産労連 高木副会長

ゆうらいふ21 山口専務理事

9:50 ワークショップ開始

ハイタッチ

10:05 早着替え（のれんで変身）

10:10 ボディーパーカッション

ミラーリング

10:20 エアボール

10:30 エアなわとび

10:50 即興ポーズ～ハート～

記念品贈呈

感謝の言葉

11:00 ワークショップ終了

13:15(福) あぶくま福祉会だての郷到着

13:55 挨拶

(福) あぶくま福祉会だての郷 半澤施設長

日産労連 高木副会長

ゆうらいふ21 山口専務理事

14:00 ワークショップ開始

ハイタッチ / 手拍子即興パフォーマンス

14:10 早着替え（のれんで変身）

ボディーパーカッション

14:15 ミラーリング

14:20 汽車ごっこ（輪になって）

14:30 早着替え（のれんで変身）第二弾

14:40 即興パフォーマンス

記念品贈呈

15:00 ワークショップ終了

### 11月27日

#### 2日目

9:00 白石陽光園到着

9:55 挨拶

白石陽光園 大野支援課長

日産労連 高木副会長

ゆうらいふ21 山口専務理事

10:00 ワークショップ開始

ハイタッチ（ボランティアと一緒に）

10:05 早着替え（のれんで変身）

10:15 ボディーパーカッション

10:20 ミラーリング

10:30 手拍子即興パフォーマンス

汽車ごっこ（輪になって）

10:45 即興ポーズ～ハート～

記念品贈呈

11:00 ワークショップ終了

11:10 指導者向けワークショップ開始

アイスブレイク（エアボール）

11:25 エアールーム

11:35 サインネーム

11:50 笑いのオーケストラ（2グループ）

12:05 庄崎さんパフォーマンス

チェロマイム「海」

手のパフォーマンス / 「男と女の出会い」

12:10 指導者向けワークショップ終了

13:00 白石寿光園到着

13:15 挨拶

日産労連高木副会長

ハイタッチ（ボランティアの方々も）

13:20 早着替え（のれんで変身）

13:35 ボディーパーカッション

13:45 ミラーリング

13:55 汽車ごっこ（輪になって）

即興ポーズ～ハート～

記念品贈呈

14:15 ワークショップ終了



# ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い



庄崎 隆志

Takashi Shozaki

障害の種類や重さを問わず様々な障害を持つ人が一緒に参加できるナイスハート基金・日産労連の企画は、いつも新しい出会いを生み、刺激もたくさんいただけます。

今年もノンバーバルコミュニケーションワークショップという大きなテーマのもと、様々な障害のある方と共に、目で楽しむ遊び、無言劇、サイレントダンス、ボディーランゲージによるゲーム等を楽しみました。

1日目は福島市立養護学校でした。皆さん、ありあまるエネルギーを内に秘めていました。何をやるにも、ひたむきで一生懸命でした。特に前回と同様の「ジャンプ」や「グーとパー」「架空の縄跳び」「鏡マイム」には、積極的に挑戦してくれました。生徒たちが「ぼ



くがやる!」「わたし、やりたい!」と前に飛び出すなど躍動感がありました。心の奥底にある喜びや挑戦する気持ちを素直に出してもらったのではないかと思います。楽しさを心に焼き付けられたのではないのでしょうか。

2日目は、白石陽光という施設でのワークショップでした。参加者は、高齢の障害者の方が多く、高齢になるに従って「身体・心・表情」とともに硬さが見受けられました。中には歩行や言語、病気などのハンディキャップをあわせもつ人も少なくありませんでした。重度の皆さんにとっては言葉を使わないワークショップに参加するのは初めてではないかと思われますし、私にとってもハードルの高いものでした。

1か月前の打ち合わせで、施設の状況や特徴などあらかじめ説明を聞いていました。施設の方は、心身の力の個人差が大きいので一人一人の状況を考えながらワークショップでうまく対応してほしいと言われました。これまでのワークショップのように「グーとパー」や「ジャンプ」等では、全員で一緒に体で動かすことが難しいのではないかと案じましたが、正直、実際にお会いしてみなければわからないことがたくさんありました。

いよいよ、当日、2日目のワークショップを始めてみると、みんなで体を動かすとき、最初は旨く楽しんでももらえていないような場面があ





り、どう受け止められていくか不安になりました。しかし、難しいと、気ばかりあせってやってしまうと余計うまく進まなくなります。そこで、アイスブレーキング（氷割り）と呼ばれる雰囲気づくりから始め、参加者との交流を深めていくような〈緩めのハイタッチ〉をやってみました。なんとなくほぐれてきました。次のメイミさんからの〈のれんで変身〉では、いろいろに変身出来るのが楽しくていい雰囲気になりました。参加者の方がパフォーマンスを披露するとみんなで大きな拍手をしました。みんなで讃え合い、とてもよい気持ちになってくれたと思います。続いて私が、「汽車ポッポ」「サインネームパーカッション」を行いました。サポートスタッフの方たちが参加者に目や心で呼び掛け一体となって汽車をやったり、鏡マイムでの参加者の素直な動きにみんなが笑顔になったり、それは奇跡のような時間でした。ワークショップ参加者の隠された可能性の再発見や笑顔の素晴らしさを味わったと思います。



メイミさんもいつもいろいろなアイデアを持っていますが、今回は打ち合わせ以上のことが要求される状況だったので、その場で参加者の様子を見ながら、お互いにいろいろ出しあい、試行錯誤しながらワークショップを進めました。まさに、参加者の特性を活かす感覚的なワー

クショップでした。

もちろん、私とメイミさんのふたりだけでは盛り上げる力は足りず、サポートスタッフ10名前後がフォローとしてついていてくれたからこそできたことでした。

施設の皆さんは、年齢、体力、興味も様々であり、これまでとはまったく違うので、今までの流れを忘れて、サポートスタッフたちにも助けてもらいながらやったいこうとメイミさんたちと話し合ったとあり、たくさん助けてもらいました。改めてサポートスタッフの皆さんに感謝したいです。

おかげさまで、新しいネタが出来ました。

○汽車ポッポ（兎よりも亀になる）

○サインネームパーカッション

○緩めハイタッチ

特別な環境で生まれたネタですが、特別な人たちのためでなく、誰でも楽しくできる軽いパフォーマンスです。体も心もさっぱりとリフレッシュされ、しがらみからも解放されやすくなると思います。日頃たまっているストレスの解消にも役立つかもしれません。無理せず気軽に行えそうです。

今回は新たな学びがたくさんありました。ワークショップは決してルーチンではなく、一人一人にぴったり合ったことを見つけながら、創っていくものであることを再確認しました。







目の前の人を大切にすることを続けたいです。試行錯誤はまだまだ続くもののようです。

私は、国際障害者年ナイスハート基金のノンバーバルコミュニケーションワークショップを通し、芸術や表現の素晴らしさを参加者と共有し心豊かになったり、新しい出会いを求めて開拓、追究してきたつもりでいましたが、今回の経験から、まだまだスタート地点に立ったばかりであること実感した次第です。



### 庄崎隆志

office 風の器主宰・俳優・演出家。

19歳で裏方のアルバイトのつもりで入ったプロフェッショナル劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」で思いがけず役を貰い、俳優に。演出・脚本も手がける。国内で2000回以上、また海外13カ国で公演の経験を持つ。2005年の退団後は公演プロデュース、また実践女子短大をはじめ様々な教育の場や国立特別支援教育総合研究所等でワークショップの講師としても活躍。映画『ゆずり葉』（全日本ろうあ連盟製作）主演。著書に「障害者と福祉文化」（第8巻・明石書店）他。2010年「第59回横浜文化賞文化・芸術奨励賞」受賞。

# ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い

メイミ

Meimi



## ノンバーバルコミュニケーションから学ぶこと

今年もノンバーバルコミュニケーションワークショップが開催されました。福島・宮城の4施設、そして指導者向けのワークショップと計5回の開催でした。

昨年に引き続き庄崎隆志さんと共にファシリテーターを務めさせて頂き、今回もまたノンバーバルコミュニケーションの素晴らしさを改めて感じる機会となりました。

開催した2日間はもちろん、その前後の準備期間、開催後の日常生活でも様々な気付きがあり、得られるものは多かったと実感しています。

### 準備は大切、だけど拘りを持たない

今回と前回との違いは、3施設は対象が大人であるということ、コミュニケーションのとりづらい障害の方が含まれていること、重度の障害の方も多いということでした。

前回は養護学校等、子供がほとんどでした。対象が変われば修正も必要になってきます。接する機会も乏しく、どう展開したら良いものか・・・と悩む部分もありました。



開催前からソフソフ毎日あれこれと考えたり、障害について調べてみたり、しかし結局、行き着く先は行って見なきゃ分からない、やってみなきゃ分からない、ということです。

ですが、こうかな？ああかな？と想像を巡らす中で、突然ひらめき「こんなことやってみたら面白くなるかも？」と発想を膨らませるとワクワクします。

そして今回特に意識したのは、参加者の皆さんが参加し活躍できる場面を多く作ることでした。

自分一人ですることでも、どうしたら一緒に、そして楽しく行なえるか？ということを中心に置いて準備を進めました。

では、実際の現場ではどうだったでしょう？

庄崎さんとは簡単な打ち合わせのみ、ファシリテーター二人もノンバーバルコミュニケーションです。

私が事前にあれこれ想像を巡らし準備したのは、上手く活躍することができました。それが想像通りだったのか？というと・・・想像とは違った展開を見せ、そこに驚きや笑いが生まれたり、想像との違いにあたふたしてしまったり。無我夢中で取り組みました。

どう展開するのか分からないその面白さもこのワークショップの醍醐味です。

事前に様々な想像をして準備をすることも大切であり、だからと言ってそこに拘らず自由に柔軟であることもまた大切なことであると感じ





ました。

日常でも同じことが言えるのではないのでしょうか？他者との関わりの中で、「こうであろう」と想像してコミュニケーションを取ります。しかし想像と違ったときに「なぜ違うんだ」と戸惑いずれが生じてしまう。

実はワークショップ中、かなり苦戦することもあり、私自身の「拘り」があったように思います。

上手く伝わらない、違うかもしれない、と感じたものの、後に引けず続けることで益々、不具合が生じるという場面がありました。

回を重ねる中で、同じ場面に遭遇してもそのプログラムに拘らず、伝わらないのでやめよう！と思い切って切り替えができるように変化し、そこからまた新しいコミュニケーションの形を作り出すことができたように思います。

日頃から拘らない自由さ柔軟さをプラスできれば、コミュニケーションがスムーズにいくのではないのでしょうか。

### コミュニケーションを諦めない心

前回も感じたことですが、ワークショップとは1対1であるということ。30人40人、100人と大勢で開催したとしても、それは簡単に集団と捉えるのではなく個の集まりであり、1対1の集合であるということです。

一人一人に多種多様な心があります。楽しみにしてくださってる方も居れば、あまり参加したくない人も居たり。反応も様々なのでコミュ





ニケーションの形も一通りでは通用しません。特に個々を意識することの重要性を実感しました。

こんなことがありました。ミラーと言って相手の動きを物まねするボディーコミュニケーションのワークがあるのですが、私のポーズに一人、二人と少しずつ真似をしていきます。そんな中、頑なな表情で腕を組んで私を見ている男性が居ました。

自分はやりたくないという意思表示のようでした。もちろんその方の気持ちを尊重するというのも一つの方法かもしれませんが、私は皆さんとコミュニケーションを取る為に来たのですから、諦めず顎に手を添えるブリッコポーズで「一緒にやろうよ!」と目力を送りました。しばし睨めっこ。心折れそうになるのをぐっと堪えて更に目力を送り続けると、その方は諦めて一緒にポーズを取ってくださいました。

こちらが諦めた瞬間にその方とのコミュニケーションが終了してしまいます。

コミュニケーションを取りたいという想いを持つ限り、諦めずアプローチすることで相手の心を開く鍵を見つけることができるのかもしれませんが。

子供を対象としワークショップでは全身を使うボディーワークでのコミュニケーションが多いのですが、大人、特に年配の方が多い場合はそうはいきません。



### ノンバーバルより難しいバーバルコミュニケーション

体を使わない分、表情豊かにありとあらゆる使えるものを使って表現し、自分をさらけ出し心と心で会話する。言葉のない会話。

2日間で沢山の方にお会いし、いろんな形のコミュニケーションがありました。

「これを経験したらどんな人とのコミュニケーションも平気だね」と言われ、東京に戻り感じたのは、「こっちの方が難しい!」ということ。

日頃そんなに考えることもありませんが、ワークショップ直後は強く感じました。

言葉とは素晴らしいものですが、それが有る故に私たちはコミュニケーションを何とかやこしくしているのでしょうか。

複雑な言葉で誤魔化し、心とは裏腹の言葉を発し、言葉で探り合いをし、コミュニケーションを難しくしていることがあるように思います。

ノンバーバルとまでは言いませんが、もっとシンプルに表現し心を伝えるノンバーバルコミュニケーションの良さを活用することができれば、コミュニケーションで悩むことも少なくなるのではないかなと思います。

参加者の皆さん、庄崎さん、関係者の皆様、ワークショップに関わる方々から多くを学びまた一つ成長させて頂きました。

#### メイミ

漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。

舞台や各種イベント、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。これからの長寿社会に向け、「笑って長生き」という考えを広める為の活動を展開している。アイディアヒューマンサポートアカデミー / カウンセリングスキルベーシック / トップメンタルトレーニング修了。日本アロマセラピー統合医学協会認定心理アロマアドバイザー。クエスト総合研究所認定 / クエストアートセラピーメンタルケア・アドバイザー





# プログラム概要

福島市立福島養護学校 11月26日(土)

| 時間                  | プログラム                                                                       | 写真                                                                                   |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:45～               | 挨拶<br>福島市立福島養護学校 塚野校長<br>日産労連 高木副会長<br>ゆうらいふ21 山口専務理事<br>ワークショップ開始<br>ハイタッチ |    |
| 10:05～              | 早着替え<br>～のれんで変身～                                                            |   |
| 10:10～              | ボディーパーカッション<br>ミラーリング                                                       |  |
| 10:20～              | エアーボール<br>エアーなわとび                                                           |  |
| 10:50～<br><br>11:00 | 即興ポーズ～ハート～<br>記念品贈呈<br>感謝の言葉<br>ワークショップ終了<br>【参加者合計166名】                    |  |

## 参加者の感想

福島市立福島養護学校 11月26日(土)

### 参加者の感想

福島市立福島養護学校

教諭 齋藤 弘樹

本校は福島県唯一の市立の特別支援学校であり、現在小学部から高等部まで114名の児童生徒が学んでいます。今年度初めて本ワークショップのお話をいただき、子どもたちも我々教員も、「ノンバーバル（非言語）コミュニケーション」とはどのようなものだろうと想像を膨らませながら体験当日を迎えました。

はじめに庄崎さんとメイミさんが登場し、全員とのあいさつのハイタッチが始まりました。最初は「何が始まるんだろう」と不安げで、控えめに手を出していた子どもたちでしたが、お二人の感情豊かな表情やリアクションを見て、「自分もタッチをしたい」と席を立ってどんどん手を出す様子が見られました。この短時間で言葉を使わず、子どもたちの感情をここまで変化させるお二人のパフォーマンスに大変感心しました。

その後も「早着替え」や「ジェスチャーでのあいさつ」、「みんなで手拍子」などを行い、子どもたちがどんどん引き込まれていくのが我々にも感じられました。その中で、子どもたちが大変盛り上がったのが「エアー縄跳び」です。ボランティアの方が回す（ふりをする）長縄をタイミングを合わせて飛び越えるというものですが、おそらく本校の児童生徒は、実際の長縄跳びをほとんどやったことがありません。しかし、庄崎さんや他の児童生徒の動きを見てルールを学び、見よう見まねでどんどん挑戦する子どもたちを見て、子どもたちの可能性や能力の高さを改めて感じることができました。

今回は児童生徒と教職員、そして保護者の皆様にも参加していただきました。私たちは毎日の生活や授業の中で、児童生徒に話をする事が多くありますが、障がいをもつ子どもたちにとって、言葉での表現や指示は理解するのが難しいかもしれません。人間にとって言葉は非常に重要なコミュニケーションツールですが、言語に頼らなくても様々な手段で相手に意思を伝えることができるということを改めて学ぶとともに、今後の私たちの教育活動にとっても大いに参考になりました。

携帯電話やSNS全盛の昨今ですが、相手に面と向かって表情を見ながらコミュニケーションをとることがいかに大切かを気づかせていただき、今後も子どもたちと喜びや悲しみを一緒に共有できるよう努力したいと感じました。会の最後には全校生に素敵なプレゼントまでいただき、子どもたちは大満足の表情を見せていました。貴重な時間を提供していただきました、日産労連、ゆうらいふ21、ナイスハート基金の皆様には感謝申し上げます。



# プログラム概要

( 福 ) あぶくま福祉会だての郷 11月26日(土)

| 時間                  | プログラム                                                                               | 写真                                                                                   |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 13:55～              | 挨拶<br>( 福 ) あぶくま福祉会だての郷 半澤施設長<br>日産労連 高木副会長<br>ゆうらいふ21 山口専務理事<br>ワークショップ開始<br>ハイタッチ |    |
| 14:10～              | 早着替え(のれんで変身)<br>ボディーパーカッション                                                         |    |
| 14:15～              | ミラーリング                                                                              |   |
| 14:20～              | 汽車ごっこ(輪になって)                                                                        |  |
| 14:30～              | 早着替え(のれんで変身)<br>第二弾                                                                 |  |
| 14:40～<br><br>15:00 | 即興パフォーマンス<br>記念品贈呈<br>ワークショップ終了<br>【参加者合計44名】                                       |  |

## 参加者の感想

( 福 ) あぶくま福祉会だての郷 11月26日(土)

### ノンバーバルコミュニケーション・ワークショップ in ふくしまを体験して

( 福 ) あぶくま福祉会だての郷

次長 高橋 健二

今回、ご縁があって『ノンバーバルコミュニケーション・ワークショップ in ふくしま』の会場の一つに、私たちだての郷にて開催していただきました。

始めにお話をいただいて、実施計画書などを見て、利用者の方の多くが重度の知的障がいを持ち、周囲とのコミュニケーションを適切にとる事が不得手な方が多い中で、言葉を使わず一時間過ごすことができるのかな？と正直なところ疑問に思っていました。

そうして、当日を迎えて、だての郷の食堂を会場にワークショップが始まりました。

始まってみるとそんな思いもすぐに吹き飛んでしまいました。

演者のお二人、庄崎隆志さんとメイミさんの、とても親しみのある笑顔と共に繰り出されるポーズに、自然とこちらも笑顔で同じポーズを返していました。

そうして演者のお二人から、出される仕草に利用者さんも含めて参加者全員が応じていくと、いつの間にか全員で大きな輪になって食堂の中を行進していたり、体を使ってジャンケンをする等、様々な体験をしました。中でものれんを使った場面では、利用者のみなさんが早着替えに挑戦し、普段は見られないような格好になっていて、思わずみんな大爆笑でした。

楽しい時間もあっという間に過ぎて、終了の時間となりましたが、ワークショップの間、本当に演者のお二人からは言葉を使われることなくコミュニケーションが図られていた事に、すごい！！の一言でした。

言葉はなくても、表情と仕草から、その人の気持ちは汲みとれるんだ、と改めて感じました。

そして今、障がい福祉の世界は、ご本人の意思決定支援が、とても大切になってきています。毎日の活動の中において、…言葉がない方だから・何を言っているかわからない方だから…何を言ってもわからない方だから、わからないままで仕方がないではなく、利用者の方お一人お一人の表情・仕草の変化に気づき、どんな思いでいるのか、どんな思いを持っておられるのか、私たち職員は常にプロとしての確に察知し応じてあげられなければいけないと、痛感しています。

最後に、このような貴重な機会を下さった、ナイスハート基金様、日産労連様、ゆうらいふ21様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！！

## 参加者の感想

( 福 ) あぶくま福祉会だての郷 11月26日(土)

またきく  
くだち、  
はる叶

おもしろ  
だったです  
まけぼ



またきく  
くだち、  
さ 52

ノンバーバルコミュニケーション  
ワークショップ in ぶんくま  
だての郷  
平成28年11月26日

めぐみ

## 参加者の感想

( 福 ) あぶくま福祉会だての郷 11月26日(土)

たのし  
く  
レんや

ありがとう  
ございました  
おつか



よたきくばい  
ほしまし

ノンバーバルコミュニケーション  
ワークショップ in ふくしま  
だての郷  
平成28年11月26日

ようい ち  
はきわらり



# プログラム概要

白石陽光園 11月27日(日)

| 時間     | プログラム                                                                                 | 写真                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:55～  | 挨拶<br>白石陽光園 大野支援課長<br>日産労連 高木副会長<br>ゆうらいふ21 山口専務理事<br>ワークショップ開始<br>ハイタッチ (ボランティアも一緒に) |    |
| 10:05～ | 早着替え (のれんで変身)                                                                         |    |
| 10:15～ | ボディーパーカッション                                                                           |   |
| 10:20～ | ミラーリング                                                                                |  |
| 10:30～ | 手拍子即興パフォーマンス<br>汽車ごっこ (輪になって)                                                         |  |
| 10:45～ | 即興パフォーマンス～ハート～<br>記念品贈呈                                                               |  |
| 11:00  | ワークショップ終了<br>【参加者合計69名】                                                               |                                                                                      |

ノンバーバルコミュニケーションワークショップに参加して

平成 28 年 11 月 27 日 白石陽光園

## <利用者の感想>

- ・みんなで丸くなってした電車が面白かった。
- ・最初はよくわからなかったけど、だんだん面白くなった。
- ・メイミさんが逆立ちしてお尻が見えた。
- ・キーホルダーがもらえてうれしかった。
- ・仙台大学の人達やゆうらいふ 21 の人達と長い電車を作れて面白かった。

## <職員の感想>

- ・言葉を使わず相手に何か伝えるという事は、本当に難しい事だと改めて感じました。専門家とはいえ、庄崎さん、メイミさんが相手の笑いを誘いながらコミュニケーションを取っていく技術には本当に感心しました。利用者の笑顔が印象的でした。本当に楽しいひと時をありがとうございました。
- ・無理を言って指導者向けのワークショップにも参加させていただきました。言葉がなくても相手に自分の思いを届ける事ができ、驚きました。本当に良い経験をさせていただきました。
- ・言葉なしに相手に伝える事はとても難しく、きちんと伝わらない事がほとんどだと思います。しかし、今回のノンバーバルコミュニケーションワークショップに参加して、利用者の方を良く庄崎さん、メイミさんの世界に誘っていけるものだと思います。普段は笑顔の少ない方も、お二人の動作が楽しかったようで、とても良い笑顔を見せてくれました。「言葉なしで伝えるのは難しい」ではなく、自分も支援する中で取り入れてみたいと思いました。とても素晴らしい時間を作って頂き、ありがとうございました。
- ・今回、ノンバーバルコミュニケーションワークショップに参加させていただき、普段見る事の出来ない利用者の方の表情やしぐさを見る事ができました。言葉無くても、皆さんが一つになって楽しんでいたのには驚きました。また、指導者向けのワークショップにも参加させていただきました。言葉を使わずに相手に自分の想いを伝える事の難しさを改めて実感させられました。本当に良い経験をさせていただきました、ありがとうございました。
- ・職員から「これをしましょう」「こうしましょう」といつも言われ、その通りにやらなくてはならないと思っている、受け身の利用者が多い陽光園で、利用者が自ら考えて、内心(どうしたらいいのだろう)と思っているのがひしひしと伝わってきました。そして、行動に移した時、何でも受け入れてくれて、笑顔でこたえて下さった庄崎さんとメイミさん。(あ、これでいいんだ)という、利用者の心の声が聞こえた気がしました。どうもありがとうございました。

# プログラム概要

指導者向けワークショップ 11月27日(日)

| 時間     | プログラム                                 | 写真                                                                                   |
|--------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 11:10～ | ワークショップ開始<br>アイスブレイク<br>(エアーボール)      |    |
| 11:25～ | エアールーム                                |    |
| 11:35～ | サインネーム                                |   |
| 11:50～ | 笑いのオーケストラ<br>(2グループ)                  |  |
| 12:05～ | 庄崎さんパフォーマンス<br>チェロマイム「海」              |  |
| 12:07～ | 庄崎さんパフォーマンス<br>手のパフォーマンス<br>「男と女の出会い」 |  |
| 12:10  | ワークショップ終了<br>【参加者合計22名】               |                                                                                      |

# 参加者の感想

指導者向けワークショップ 11月27日(日)

ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップに参加して

仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.

3年 薄井 雅人



今回初めて、ノンバーバル・コミュニケーションに参加させていただき、たくさんの発見や驚きを感じました。

まず最初の、静寂。言葉を使用しないということへの不安感は、想像以上でした。しんと静まり返った会場でうまくやれるだろうか、と心配していましたが、庄崎さんやメイミさんが雰囲気を作ってくださって、緊張がほぐれました。

そうして、参加したノンバーバル・コミュニケーションで感じたことは、言葉なしでも伝わるということ、そして今までどれだけ言葉だけのコミュニケーションに頼っていたかということに気づかされました。相手をよく見て、わかろうとする姿勢は、障がいの有無にかかわらず現代社会に必要なものではないかと感じました。

身振り手振りや表情で表現したり、手を触れ合わせた時に感じる暖かさや楽しさは言葉で表すことがとても難しいように思います。

今回で得ることのできた表現方法は、これからの活動で生かしていこうと思いました。





# プログラム概要

白石寿光園 11月27日(日)

| 時間     | プログラム                                               | 写真                                                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 13:15～ | 挨拶<br>日産労連 高木副会長<br>ワークショップ開始<br>ハイタッチ (ボランティアも一緒に) |    |
| 13:20～ | 早着替え (のれんで変身)                                       |    |
| 13:35～ | ボディーパーカッション                                         |   |
| 13:45～ | ミラーリング                                              |  |
| 13:55～ | 汽車ごっこ (輪になって)                                       |  |
| 14:10～ | 即興ポーズ～ハート～<br>記念品贈呈                                 |  |
| 14:15  | ワークショップ終了<br>【参加者合計38名】                             |                                                                                      |

ノンバーバルコミュニケーションワークショップに参加して

白石寿光園

今回はお忙しい中ご来園頂き誠にありがとうございました。

言葉を用いて動きを真似るといったレクリエーションは度々行う機会があるため、今回のような非言語コミュニケーションによるワークショップは、普段とは異なる試みとして利用者の目にも新鮮に映ったのではないかと感じます。始まるまでは利用者がどのような反応をするのか予想がつかず少し不安な気持ちもありましたが、いざワークショップが始まると庄崎さんとメイミさんの作り出す雰囲気を楽しんでいる様子が見られました。

全体を通して参加していた利用者に関しては、今回の活動は言葉を使わずに行い楽しむものであるといった趣旨を自ずと理解していたのも印象的でした。利用者には内容について事前に詳しく話しておらず、その時のお楽しみといった形で伏せていたのですが、誰の言葉にも頼らず見て聞いて感じたままに体を動かしたり、誘い掛けに対して反応している姿が見られ、利用者の持つ可能性を改めて感じる事ができました。

また、今回のワークショップでは日常生活でも使うことの出来る簡単で真似しやすい動作もしばしば見られ、今後支援を行うにあたって是非取り入れていきたいと思いました。拍手ひとつにしてみても、するたびに笑顔を見せていた利用者もあり、非言語コミュニケーションの持つ力の大きさを実感しました。

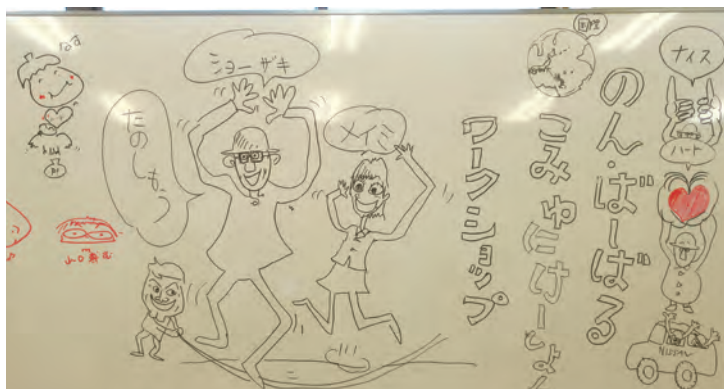
参加した利用者も、ワークショップを通して何を感じたか職員に声を聞かせてくれています。その感想の一部をご紹介します。

## <利用者の感想>

- ・みんなで輪になってくるくる回ったよ！楽しかった。
- ・たくさん笑っていがった。
- ・おもしろい動きいっぱいしてて、楽しかった。
- ・みんなで拍手して良かった。
- ・みんなの前に出るの恥ずかしい気持ちもあったけど、やってみたら楽しかったです。

今回のワークショップは利用者にとっても職員にとっても大いに実りのある活動であったと実感しています。これをきっかけに非言語コミュニケーションの事を改めて認識し、職員と利用者がよりよい交流を図れるよう取り組んでいきたいと思っています。重ね重ね、今回は貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

## ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップに参加して



日産労連福島地方協議会

議長 木村 孝幸



”言葉を使わずにコミュニケーション？”参加する誰もが思う  
最初のはてな(?)です。説明するにも難しい！とにかく、まずは  
”動きやすい服装で参加して！”からの参加者を募集します。  
私の参加は2回目となりますが、初めは、やっぱり、はてな(?)から  
参加させて頂きました。

公演が始まります。嬉しさや楽しみから、ざわついた雰囲気の中  
唐突に、一言も話さず身振り手振りで二人のご挨拶。会場の皆さんの視線は  
釘付けです。こうして始まる、庄崎さん、メイさんの面白おかしい身体を  
使った動きに会場の皆も自然と笑顔に！

ここまで来てやっと”言葉を使わないコミュニケーション”創りに納得。  
太鼓や、まねごと遊び、エア縄跳びなど二人の動きを真似、自分の身体だけで  
相手に伝える事を我々参加者も、自分の身を持って経験します。  
言葉を使わずには、伝えられない、伝わらないと思いがちですが、  
自分らしい伝え方であったり、この人は何を言いたいんだ？と考える、  
理解しようと思う気持ちを実感・学ぶことができます。

コミュニケーションと言う文字は魔法の言葉です。本当の意味で、  
”お互いのことを分かりあうこと”の大切さを我々、参加者も改めて振り返り  
日常生活の中で生かすよう心掛けたいです。

最後に、利用者さんの”ありがとう”感謝の言葉や表情に触れられ  
我々参加者も逆に元気をもらえる活動です。

庄崎さん、メイさん、ありがとう！

## 特定寄付金協力謝礼

### <実施事業の概要>

東日本大震災後の不安定な環境により、福島の子どもたちは外で活動する機会が減り、とりわけ障害のある子どもたちに対する支援は行き届かない状況が続いています。このような環境の中、障害児とその家族の精神的負担は大きいものだと考えられ、支援の必要性を強く感じています。

平成24年度より実施した、福島の障害のある子どもと家族のための「ふくしまっ子キャンプ」では、3年次にわたり多くのご家族とボランティアの参加を得て、好評のうちに実施することができました。また、この活動に対して、平成26年度には募金総額 1,827,550 円（12 団体 / 16 個人）のご寄付をいただき、支えていただきました。

今年度は福島県内の障害のある子どもが通う養護学校と障害者施設、福島県に隣接した宮城県白石市の障害者施設へ出向き、ワークショップを行うことにより、地域の中で支えあいつながりを強くすることができないかという目的のもと、実施概要の通りの事業を実施いたしました。

みなさまに募金を呼びかけました「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in ふくしま」につきまして、多くの個人、団体のみなさまからご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

当日は日産労連のボランティアにご協力をいただきながら、たくさんの子どもたちと過ごすことができました。

### <募金総額>

197,100 円（3 団体 / 7 個人）

スタジオとまと様、戸井田 和彦様、（株）、スマイルリフォーム様、（有）ビジネスネットワーク様、澗口 良一様、（特非）自立支援センター歩歩路様、森幸園様、合田 雅一様、大野 美奈子様、野口 昇兵様



## 編集後記

ノンバーバル（非言語）が主役のこのワークショップの報告書作成は、昨年に続いて2回目となります。昨年同様やはり言葉がない分、言葉で振り返ることの大切さを実感することが出来たというのが正直な感想です。

「コミュニケーション」という言葉を体現してと言われたら、人の数だけあると思います。だからこそ、非言語という非日常の空間に潜むコミュニケーションを体験することで、参加された皆様の様々な心の在り様が見え隠れして、新たな発見に出会えるのではないのでしょうか。その発見の数々が、参加者から頂いた感想に散りばめられていました。

報告書では笑顔溢れる写真が多々あります。しかし、そこに至るまでの過程は苦難の連続です。両手を差し出しても、どこか上の空な参加者。手招きをしても、恥ずかしそうに拒絶される参加者。その反応を崩しにかかる二人の演者、庄崎さんとメイミン。我慢強く辛抱く、そして手を替え品を替えながら向き合う相手の反応をじっと待ち、やがて参加者の笑顔が広がっていく。この言葉なき攻防こそが、まさにノンバーバルの醍醐味が凝縮されていると感じます。

便利な言葉を排して、普段体験出来ないことの多くを発見させて頂いたことに感謝して、ワークショップに関わってくださった全ての関係者の皆様に御礼申し上げます。

（公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 高倉 和樹）

### 平成 28 年度ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ 実施報告書

平成 28 年 12 月発行

発行元 日産労連 / NP0 法人日産労連 NP0 センター「ゆうらいふ 21」  
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金